

平成25年県政10大ニュース

広報課

今年の主な県政の動き（事業、出来事等）やそれに関わる重要な出来事の中から、将来に向けて夢や希望を与える出来事、県民幸福量の最大化に資する出来事、県政課題の解決に向けて取組みを積極的に進めたものなどから選びました。

※◎が県政10大ニュース

県政に関わる重要な出来事

◎24年産米の食味ランキングで県産米「森のくまさん」が日本一に輝く〔2月〕

～「森のくまさん」が128銘柄のうち、最高得点で日本一。“稼げる農業”に弾み～

◎阿蘇地域が世界農業遺産に認定〔5月〕

～地域の活性化へ期待。また、草原の維持再生にも関心高まる～

◎万田坑（荒尾市）・三角西港（宇城市）が熊本県初の世界文化遺産推薦決定〔9月〕

～県内初の世界文化遺産の誕生へと一歩近づく～

◎水銀に関する水俣条約外交会議が本県で開催され「水俣条約」を全会一致で採択〔10月〕

～地球規模の水銀削減に向けた歴史的な第一歩。また、本会議において知事が提唱した水銀フリーの取組みが県内で始まる～

◎全国豊かな海づくり大会に際し天皇皇后両陛下御来県〔10月〕

～「全国豊かな海づくり大会」への御臨席のほか、菊池恵楓園、水俣病慰霊の碑、水俣病資料館、熊本城も御訪問。3日間で10万人を超える県民が両陛下を奉迎～

◎2019女子世界ハンドボール選手権大会の「日本・熊本」開催決定〔10月〕

～1997年男子世界ハンドボール選手権大会以来となる熊本での世界選手権の開催が決定～

◎故川上哲治氏への県民栄誉賞贈呈〔12月〕

～野球選手、監督として数々の偉業を成し遂げられた故川上哲治氏の生前の功績を県民とともに称える～

◎水俣病認定をめぐる最高裁判決とその後の動き〔4月～12月〕

～4月の最高裁判決後、県の求めに応じ国は「総合的検討」の具体化に着手。10月の裁決など一連の動きを受け、12月に国に対し、臨水審の設置等を要求～

◎「幸せ実感くまもと4カ年戦略」の取組みの加速化

〈活力を創る〉

～「くまもと県南フードバレー推進協議会の設立」や「“赤”の統一ブランドイメージの発信」など活力を創る取組みが進む～

〈アジアとつながる〉

～「台湾高雄市との国際交流促進覚書（MOU）締結」、「台湾高雄市からの連続50便のチャーター便就航」や「八代港の国際定期コンテナ航路の週5便化」などアジアとつながる取組みが進む～

〈安心を実現する〉

～「熊本広域大水害（H24.7.12）からの復旧・復興プラン」の下、創造的復旧・復興が着実に進む～

～「南部発達障がい者支援センター“わるつ”」の設置や「県立熊本かがやきの森支援学校」の開校決定など福祉・教育の基盤整備が進む～

〈百年の礎を築く〉

～“すべての道はくまもとに通じる”の実現のため、「熊本天草幹線道路（本渡道路）」や「中九州横断道路（滝室坂道路）」、「九州中央自動車道（九州横断自動車道延岡線）」など幹線道路のネットワーク整備に向けた取組みが進む～

～農山漁村の多面性をさらに発揮させる「くまもと里モンプロジェクト」をスタートさせるなどくまもとの農林漁村の景観や文化の保全・継承をするための取組みが進む～

◎くまモン更に活躍の場を拡げる

・「くまモンスクエア」がオープン

～くまモンに会える施設として熊本市中央区に開設。2か月で来館者数10万人達成～

・海外でも大活躍

～台湾・香港・中国・シンガポール・フランス・ドイツ・イギリスを訪れ、国外でのプロモーションを展開。また、アメリカにおける知事のトップセールスにも同行。ハーバード大学での特別講義やニューヨーク出沒など本県のPR活動を実施～

・グッドデザイン賞ほか多数受賞

～「くまモン」のビジネスモデルがグッドデザイン賞地域づくりデザイン賞を受賞。ほかに、観光庁長官表彰、日本マーケティング大賞九州地域賞などを受賞～

・関連グッズが更に充実

～「テディベアくまモン」（シュタイフ社）、「くまモンMINI」（BMW社）、「クリスタルくまモン」（バカラ社）など世界の有名企業とのコラボ商品が次々に登場。「くまモンもん」や「くまもとサプライズ！」のCDも発売。～